

特定非営利活動法人日本咀嚼学会 健康咀嚼指導士
平成28年度第3回フォローアップセミナー

「介護食の上手な使い方」



日 時:平成28年11月5日(土)13:30~15:30

講演 13:30~15:00

質疑応答・ディスカッション15:00~15:30

会 場:広島大学 霞キャンパス 広仁会館 中会議室

司会進行: 増田 裕次

(松本歯科大学総合歯科医学研究所口腔機能制御学部門 教授)

○「歯科からみた介護食」

吉川 峰加

(広島大学大学院医歯薬保健学研究院先端歯科補綴学 准教授)

急性期、回復期、維持期と摂食嚥下障害患者の全身状態と取り巻く環境が変化するなか、われわれが介護食を適切に選択していくことは難しい。とくに窒息・誤嚥リスクの高い患者に対して、日本摂食嚥下リハビリテーション学会が示す嚥下調整食分類2013や農林水産省の「スマイルケア食」は一助となる。加えて、様々な職種が介護食を選択する際に、食事観察や簡便な機能評価法を通じて障害の問題点や残存する能力を把握することが望ましい。今回は歯科的観点から食事観察時のポイントや様々な職種でも簡便で有益な機能評価法についてお話ししたい。

○「摂食嚥下障害と介護食のマッチング」

別府 茂

(ホリカフーズ株式会社 経営戦略室)

介護食は摂食嚥下障害者のために、病院、高齢者施設で調理されるほか、家庭においては介護用加工食品の必要性が高まっている。しかし、障害の内容に適切に対応した介護食の選択は難しく、嚥下障害にあつては安全を優先し、咀嚼障害にあつては食べやすさから介護食を選択する傾向が見られる。一方、機能低下への対応とリハビリテーションへの対応では介護食の選択が異なるため、障害と食形態への理解を深めることが大切である。